

美しい夜更かし展

「美しい夜更かし」展

意図

私達にとって、「夜」とはどんな存在であろうか。

「夜」とは1日のうち、太陽が沈んでからまた昇るまでの時間帯のことだ。地球上のすべての人に普遍的に訪れるものであると同時に、時代や地域、季節によって、その過ごし方や捉え方はまちまちである。

たとえば古来日本では「逢魔が時」と言われるように、その闇のおどろおどろしさから「魔に逢う」として恐怖を見出してきた。しかし、ロシアやカナダなどの一部地域では白夜が起り1日中太陽が沈まないため、遅い時間でも日中のように娯楽を楽しむ人がいる。

「夜」は不変の現象としてあり続ける中で、人々とともに多様な文化を育んできたのである。

「夜」の闇は人々に想像力を喚起させ、時として美術作品に昇華された。対する人工的な光もまた、今日では「美しいもの」として多くの人に認識されている。このようにして、「夜」の中からは様々な美が見出されてきた。

私は人と「夜」との関わりやそこから見出された美しさに魅力を感じ、「夜」をテーマに展覧会を企画した。鑑賞者にとって、夜という時間を見直すきっかけになることを願う。

内容

会場 都内のプラネタリウム設置施設

会期 2017年7月30日～11月24日

開館時間 10:00～17:00

展示はプラネタリウムとともにアート、デザイン、詩歌作品を展示し、様々な角度から「夜」の美しさを紹介する。

また、日中でありながら「夜」をよりリアルに感じるため、会場内の照明は作品保護のほか、演出のため暗めに設定する。これによって鑑賞者は非現実的な空間を味わうことができる。

1 「夜」の誕生

会場に入るとまず、ギュスターヴ・ドレ「光の創造」が鑑賞者を迎える。「夜」という概念がこの世界においてどのように誕生したのか、聖書を引用してその起源を探る。



ギュスターヴ・ドレ「光の創造」

はじめに神は天と地を創造された。地は混沌としており、闇が淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをうごいていた。神は言われた。「光あれ」。かくして光があった。神はその光を見て、良しとされた。神はその光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼んだ。

－ 『創世記』 第1章 1-5

2 「夜」とイマジネーション

続いて、美術を介して可視化された「夜」を紹介する。ここで展示するのは「夜」がテーマの作品や、「夜」から湧き出る意識下のイメージを連想させる作品である。



左：ルネ・マグリット
「光の帝国」



右：オディロン・ルドン
「夢のなかで」より「2.発芽」



左：マックス・エルンスト「イヴ、我々に残された最後の一人」
右：亀井徹「良いこと探し」



マン・レイ「Black and White」

また、古くから独特の美意識を持っていた日本人が「夜」をどのように表現してきたかを見ていく。小倉百人一首より引用した「夜」を主題にとった和歌と日本画作品を紹介する。

今来むといひしばかりに長月の 有明の夜を待ち出づるかな

素性法師

あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む

柿本人麻呂

夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月宿るらむ

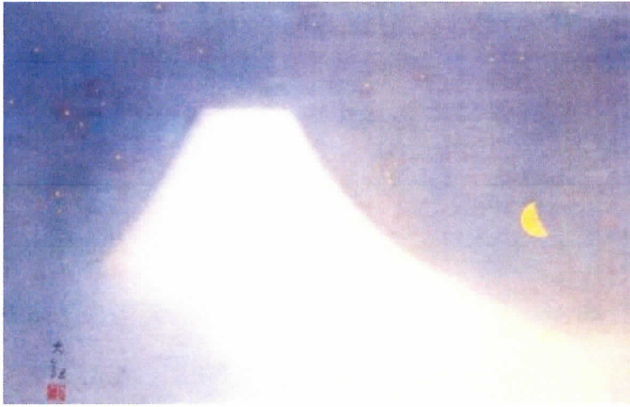
清原深養父

みかきもり衛士のたく火の夜は燃え昼は消えつつ物をこそ思へ

大中臣能宣

夜もすがら物思ふころは明けやらで闇のひまさへつれなかりけり

俊恵法師



左：横山大観「霊峰十趣・夜」右：松林桂月「春宵花影」



歌川広重「東海道七 五十三次 藤沢 (隷書東海道)」

3 現代人と「夜」

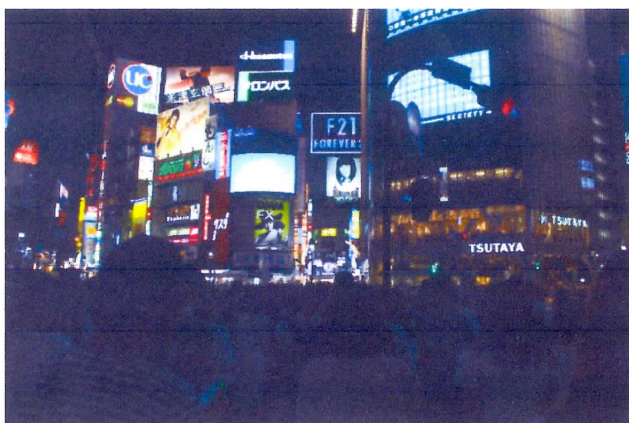
展示室は突然明るくなり、ここでは私達にとって最も身近な、現代の日本の「夜」に焦点を当てていく。その象徴であるネオンサインやLEDによるイルミネーション、自動販売機などを用いたインスタレーションを展開する。鑑賞者がスイッチを押して操作できる仕掛けを設けて楽しませる。



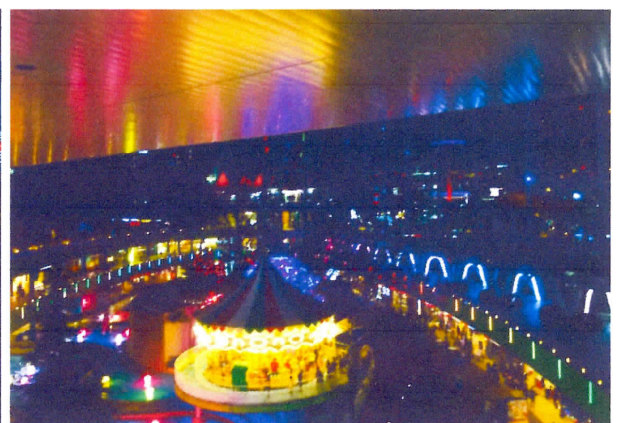
大阪・心齋橋の電飾看板



夜の自動販売機の様子

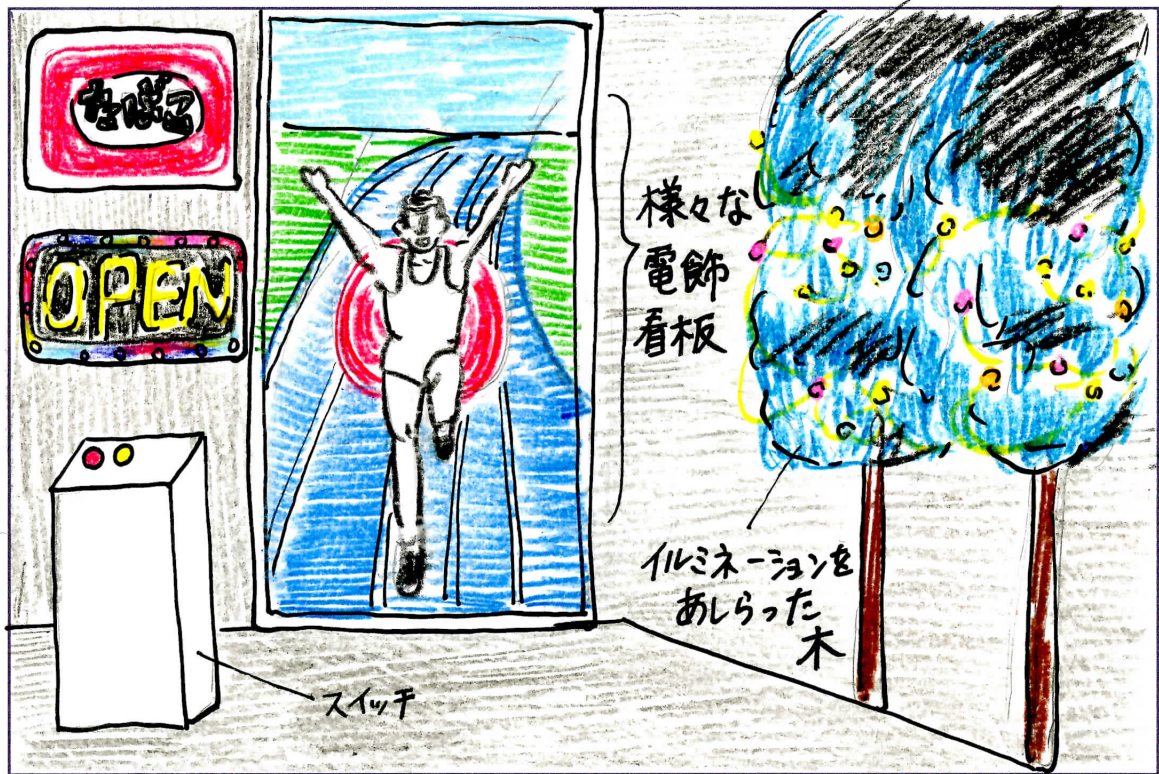


東京の象徴、渋谷スクランブル交差点の「夜」



東京ドームシティ・ラクーアのイルミネーション

展示イメージ



4 星空と「夜」

科学的な目で見ると、「夜」は天体の運動によって引き起こされる

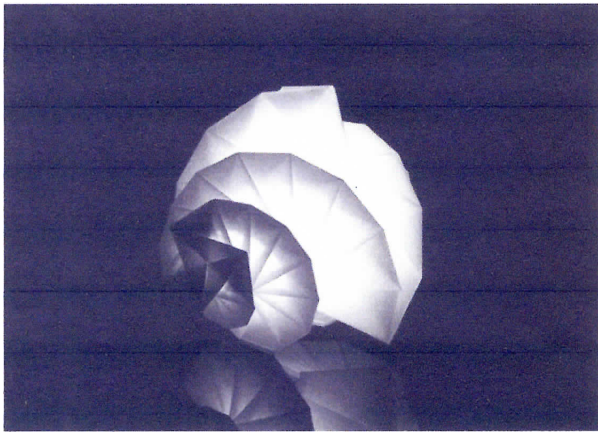


現象である。ここではプラネタリウムを上映し、暗闇の中で星空による天文学的な「夜」の美しさを味わう。

参考：都内のプラネタリウム施設

5 明かりと「夜」

最後の展示は、「夜」を過ごすのに欠かせない多様な照明器具の回廊である。タイプを問わず様々な照明器具を通路に沿って設置していく。個性的な照明の例として、次のようなものがある。



左：ISSEI MIYAKE IN-EI 「MENDORI」

右：LUMIOsf 「ルミオエスエフ」



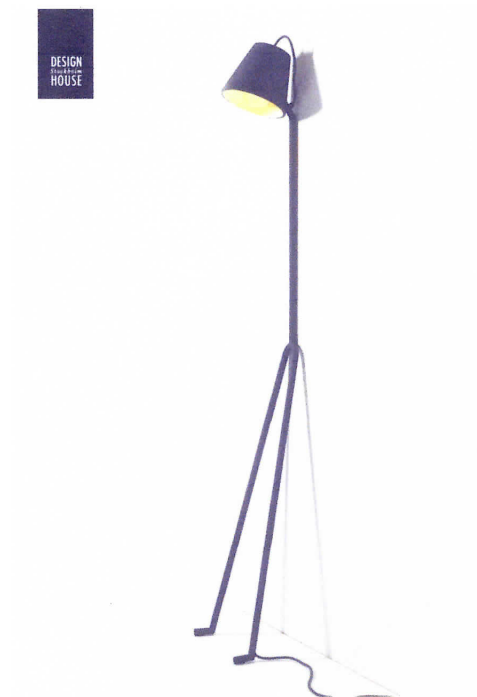
Propaganda 「BRAIN LAMP」



IKEA 「ペンダントランプ」



Propaganda 「MATCH LAMP」

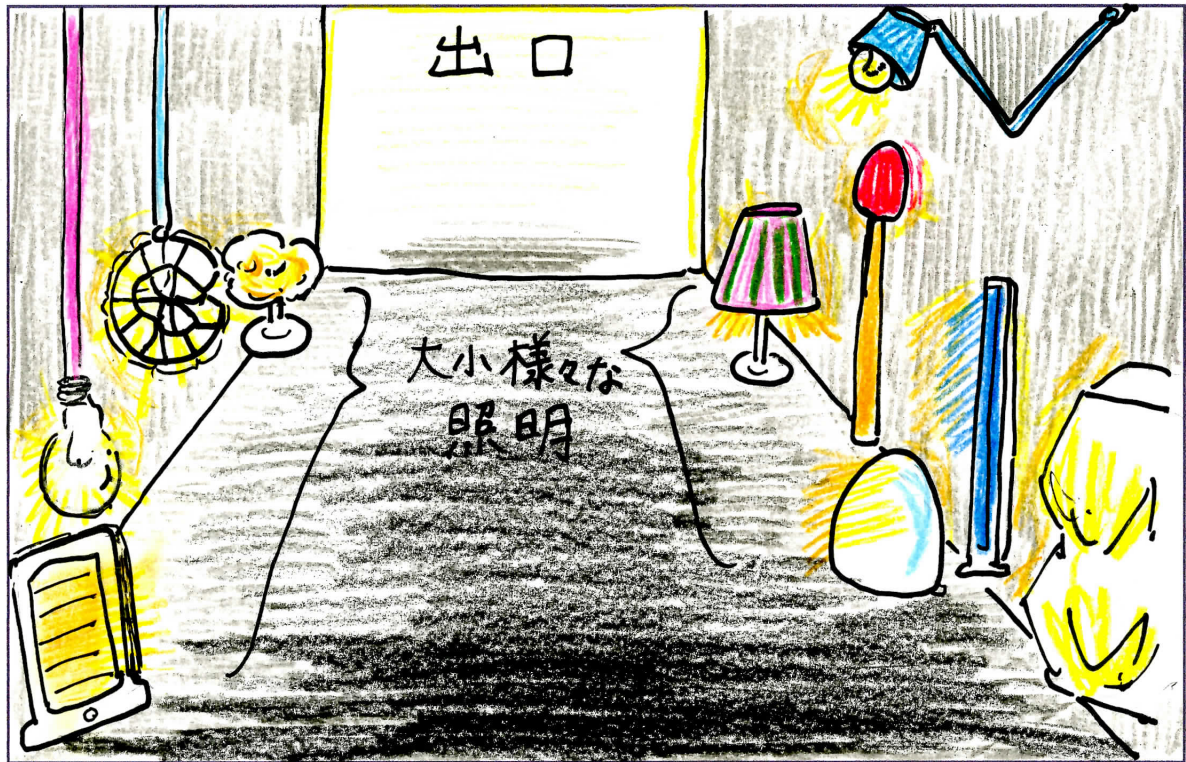


デザインハウス スtockホルム 「マニャナランプ」



ディクラッセ 「フォレスティ テーブルランプ」

展示イメージ



以上で展示は終了である。照明は出口に向かうにつれ明るくなっていく仕組みになっている。鑑賞者は、繰り返される現実世界の「夜」へと戻っていく。しかし、本展をきっかけに「夜」を見つめ直し、今までと少しちがった気持ちで過ごすことができるかもしれない。